第3種郵便物認可

興南 男子 那覇西 女子 V2

KBC学園杯 県高校ハンド

ハンドボールのKBC学園杯第35回県高校春季選手権大会（主催・県ハンドボール協会、共催・KBC学園、沖縄タイムス社）最終日は13日、八重瀬町東風平体育館で男女の決勝と3位決定戦を行い、男子は興南が具志川商に38―19、女子は那覇西が浦添を37―20で下し、ともに2連覇を飾った。

3位は男子はコザ、女子は陽明だった。

▽男子3位決定戦

コザ 44（22―14、22―10）24 陽明

▽同決勝

興南 38（19―10、19―9）19 具志川商

▽女子3位決定戦

陽明 20（11―7、9―10）17 普天間

▽同決勝

那覇西 37（15―12、22―8）20 浦添

男子決勝・興南―具志川商　前半、ディフェンスをかわし、シュートを放つ興南の具志堅陽向＝八重瀬町東風平体育館（仲間勇哉撮影）

女子決勝・那覇西―浦添　後半、中央からシュートを放つ那覇西の下地聖良

数的不利も守備盤石

前半では危うい場面もあったが、終わってみれば那覇西の圧勝だった。

立ち上がり、いまひとつかみ合わず、守りで反則をとられた那覇西は、12分すぎから退場者が相次ぎ、コートに4人しかいない時間もあった。

三輪はるか主将を中心に「やれることをやろう」と確認し合って気持ちを切り替えた。後半は勢いを取り戻し、中盤での6連続得点など一気に浦添を引き離した。三輪主将は「5人しかいない時でもディフェンスは機能した。得点もできた。逆に自信になった」と振り返った。

攻守で踏ん張った慶田花幸も「人数が足りない時でも、相手のミスを誘うために仕掛けていけた。6人そろっている時でも、あの気持ちでいきたい」と自信を深めたようす。

下地保監督は「立ち上がりを気を付けて、どれだけ守っていけるか」と課題を挙げた。三輪主将も「守りがまだまだ。特にディフェンスで3枚目の動きを修正していきたい」と気を引き締めていた。（安里真己）

女王打倒を誓う

○…女子浦添は1―8と立ち上がりにつまずきながらも、中村久美子を中心に積極的な攻めで反則を誘い、那覇西に退場者を続出させた。だが、数的優位にも「慌ててしまって、戻りが遅く逆速攻をやられた」（古堅琴子主将）と、3点差まで迫るも追い付けず、後半は那覇西の猛攻の前になすすべなく敗れた。

古堅主将は「課題を修正して、次の全国総体県予選を取りたい」と女王打倒を誓った。

エース軸に攻撃多彩

エースの東江雄斗主将を起点に、周りの選手が得点を決める。男子興南は2年ぶりの全国総体制覇へ向け、そのスタイルを着実に確立しつつあるようだ。

具志川商との決勝でも盤石の強さを見せつけた。チーム最多の9得点を挙げながら、中央へ切れ込んで周囲へパスをさばいた東江は「守備で粘って速攻とか、良い部分は出ている。セットプレーでもみんな役割を果たした」と喜んだ。

けがで欠場の主力に代わり、スタメン出場の具志堅陽向が速攻や左サイドから5得点、松原優人もあらゆる位置をこなして3得点など、1年生で計15点を挙げて存在感を示した。

「失点はもっと抑えられた。ミスが多かった」と黒島宣昭監督。横一線の守備を敷いた時に相手のロングを許し「ブロックができていない」など注文は尽きないが、期待する1年生の名前を次々と挙げる指揮官の顔からは、自然と笑みがこぼれた。

「前が空いているのに怖がったりとか、まだまだ甘い。もっとはつらつしたプレーを」と主将が1年生に求めると、松原は「ほかの1年生や2年生にも負けないよう、練習から生き生きとやっていきたい」と闘志を燃やした。（當山学）

体格・経験に差

○…1年生主体で勝ち上がった具志川商だが、決勝では、王者・興南に完敗。「胸を借りるつもりだったが、相手が強すぎた」と比嘉和直監督。接触プレーで、相手にはじき飛ばされてボールを奪われるなど、体格や経験の差が響いた。

「初心者もいるが、まじめなチーム。練習量を増やして、力をつけたい」と比嘉監督は、いっそうの成長を図る構えだ。

全国選抜ハンド中止

県勢「夏向け頑張る」

日本ハンドボール協会は13日、25日から岩手県花巻市で開催予定だった全国高校選抜大会を中止すると発表した。同協会では「施設やアクセス、今後の余震予測などから参加者の安全確保が保障できないと判断した」としている。

県からは男子・興南、女子・那覇西の出場が決まっていた。

男子興南・黒島宣昭監督の話　この状況なので開催は厳しいと思う。残念だけど仕方ない。全国総体の開催地も岩手なので、早めに復旧することを願っている。夏に向けて頑張りたい。

女子那覇西・下地保監督の話　沖縄のチームにとっては、全国を見る貴重な機会なので残念だが、大会地があの状況なら仕方がない。気持ちを全国総体に切り替えてやっていく。